



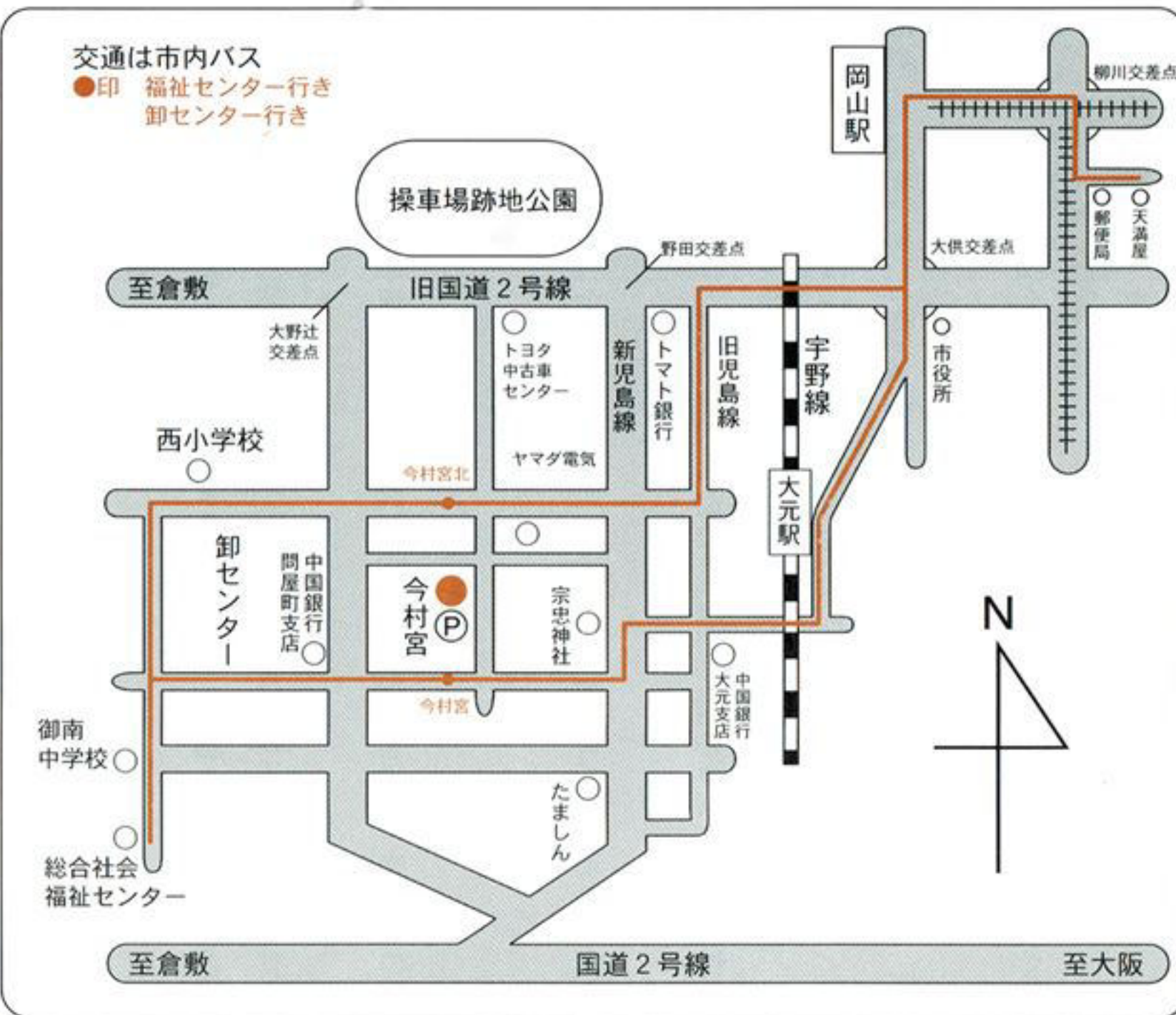
# 今村宮

御本殿  
鎮座地

岡山県指定重要文化財  
岡山市今四丁目三番五号

## 今村宮までの交通

交通は市内バス  
●印 福祉センター行き  
卸センター行き



〒700-0975 岡山市今四丁目三番五号

TEL 086-241-2744

FAX 086-241-2747



## 1) 鎮座の由来

今村宮は建武元年(一三三四)のご創建であり、岡山市内の広域にわたる産土(▼うぶすな)神社です。

岡山市の中心部である内山下の榎の馬場(現在の岡山県庁前)に、奥州白川の城主である菖蒲七郎左衛門の子・正寿が勧請しました。天照大御神、八幡大神、春日大神の三神を奉祀したので、「三社明神」とか、「三社宮」と称せられました。そして、約二百五十年にわたり、岡山市の中心部の産土の大神として崇敬されておりました。

天正八年(一五八〇)、岡山開府の祖といわれる宇喜多直家が岡山城城郭を拡張するにあたり、付近の土地を整理・移転しました。そこで、三社明神は今野村に祭られている八幡宮にご遷宮することになりました。その時、二つの神社は合祀され、現在の今村宮となりました。

今村宮はこのような歴史のため、二つの大きな地域に氏子があります。三社宮、三社明神といわれていた当時よりの氏子は、岡山市中心部である内山下(水の手、相生、元町)、大炊殿(現在の川崎町)、橋本町、荒神町、中之町、下之町、栄町、紙屋町、西大寺町、新西大寺町、細堀、千日前、天瀬、中山下、高砂町、仁王町、常磐町、中央町、柳町、田町、下出石、下石井、下西川、桑田町などです。多少の変化はありますが、今日でもなお今村宮の氏子です。

また、急速に開発発展しようとする今、竹通、大野辻、上中野、下中野、野崎、新中野町内の鎮守さまとして私たちをお守りくださっています。

明治十六年、今村宮は県社に列しました。

## 2) 祭神

マテラスオオミカミ  
天照大御神

ハチマンオオカミ  
八幡大神

カスガ オオカミ

春日大神

スサノオノオオカミ  
素盞鳴大神

天照大御神は万物を生かし育てる日の神(太陽神)で、伊勢神宮の内宮(▼ないぐう)に祭られている神さまでもあります。日本人は遠く縄文時代より、太陽を神として崇敬してきました。そして、「お天道さまは見てござる」ということを道徳の規範としてきました。また、天照大御神は天の岩戸神話にあるように、世の中に光明をもたらす神です。

神話では、イザナギノ命・イザナミノ命が登場して、大八島(日本)や神々を生んでいきます。最後にお生みになったが天照大御神、月読大神、素盞鳴(▼スサノオノ)大神です。この三神



は特に貴い神々ということで、「三貴神」と呼ばれています。

八幡大神は応神(▼オウジン)天皇・神功皇后(▼ジングウコウゴウ)・比売(▼ヒメ)大神の総称です。第十五代の応神天皇は崩御してから八幡大神とられました。また、応神天皇の母君である神功皇后は、神である応神天皇を産んだことより、安産の神としても崇敬されています。比売(▼ヒメ)大神とは宗像三女神のことであり、市杵島姫(▼イチキシマノ)大神、田心姫(▼タゴコロヒメノ)大神、湍津姫(▼タギツヒメノ)大神です。

昔の漁民は「南無八幡大菩薩(▼なむはちまんだいぼさつ)」の旗を掲げて、漁に出ました。そして、八幡大神は武道や勝負事に関しても神徳があります。そこから、武家の棟梁である源氏の氏神としても厚く崇敬されました。

春日大神とは武甕槌(▼タケミカツチノ)大神・斎主(▼イワイヌシノ)大神(経津主大神)・天児屋根(▼アメノコヤネノ)大神・比売(▼ヒメ)大神の総称です。

武甕槌(▼タケミカツチノ)大神は常陸国一の宮の鹿島神宮のご祭神であり、武神として知られています。斎主大神(経津主(▼フツヌシノ)大神)は下総国一の宮の香取神宮のご祭神でもあり、武甕槌(▼タケミカツチノ)大神とともに国譲りの時に活躍された神さまです。天児屋根(▼アメノコヤネノ)大神は天の岩屋戸において、天照大御神が岩戸からお出ましになるために、天津祝詞(▼あまつのりと)の太諄辞事(▼ふとのりとごと)を奏上した神さまです。

「天照大御神・八幡大神・春日大神」の三神は特に古くから崇敬され、「三社御託宣」は人間の歩む道を示すものとして、尊ばれました。

素盞鳴(▼スサノオノ)大神は天照大御神の弟神です。大神はヤマタノオロチ退治で知られるように、神話の中で英雄神として有名です。誕生後、高天原で泣き続けて山を枯らしたり、また、田の畦を壊したり、大暴れをして高天原から追放されてしまいます。

スサノオノ大神は地上に降り立ってから、一転して大活躍します。クシイナダヒメノ命を助け、ヤマタノオロチを退治します。そして、天叢雲剣(▼あめのむらくものつるぎ)(草薙剣)を天照大御神に献上します。それが皇位継承の三種の神器の一つになりました。また、スサノオノ大神は全国各地に植林をして、緑豊かな国にしたと伝えられております。このように、平和をもたらす英雄神であると同時に、植林の祖神(エコロジの神)でもあります。

## ご祈願

家内安全、商売繁盛、厄除け、縁結び、初宮詣、交通安全、諸願成就など

ご霊験は広大で、さまざまな願望を聞き届け、叶えてくださいます。大神さまに祈念し奉(▼まつ)るところはほとんど人間全般の事柄にわたります。祈念することによって、心に安らぎを得て、いわゆる安心立命の域に近づくことができます。

## ご祭事

地鎮祭、

上棟祭、

竣工祭、

家祈祷、

神葬祭など

## 御本殿(岡山県指定重要文化財)

御本殿は三間社流れ造りであり、内部には大神さまの神徳をあらわすさまざまな絵が描かれています。昭和三〇年には、その文化的価値の高さから、岡山県の重要文化財に指定されました。

幣殿 本殿の改築と同時に享保年間に改築されました。

舞殿 元禄二年(一六八九)八月に建築されました。

拝殿 貞享三年(一六八六)に氏子が建立しました。

神饌殿 享保十三年(一七二九)に氏子より寄進されました。

随神門 延享二年(一七四五)に氏子に寄進されました。

社務所 建築年は不詳ですが、老朽化にともない平成五年に氏子・荒木雄

一郎氏より寄進されました。

また、建造物には本門、石鳥居、神馬、狛犬、石燈籠、表門があります。

## 御社号

明治時代の東郷平八郎伯爵の揮毫です。東郷平八郎元帥は日露戦争の日本海海戦で、ロシアのバルチック艦隊を奇跡的に撃破した時の司令長官であり、その勝利の御礼に揮毫されたものです。



## 境内神社

二、一〇五坪の平地の長方形の社地には池を配し、北の中の島には宗像大神を祭り、南の島には亭を配しています。境内には摂社・末社が多数あります。

## 宗像(▼むなかた)神社

神池の中の島には宗像(▼むなかた)神社が祭られています。ご祭神は、海神の市杵島姫大神、田心姫大神、湍津姫大神です。この三女神はスサノオノ大神の子神であり、八幡大神の中の比売大神(▼ひめおかみ)でもあります。

## 七宮神社

七宮神社は祓殿(▼はらいどの)神社・忌部(▼いむべ)神社・猿女(▼さるめ)神社・鏡作神社・玉作神社・戸隠神社・思兼神社の七宮を祭っています。祓殿神社は祓戸の大神を祭っています。祓戸の大神は人間や地域を祓い清めをしていただく尊い神々です。

## 神社ミニ知識

### 産土(▼うぶすな)の神・鎮守さま

産土の神とは文字通り「産まれた土地」の守り神です。「産」は産湯(▼うぶゆ)、産声など、誕生に関係した言葉にその名残があります。産土の神はその土地に産まれた人間(産子)を生まれてから死ぬまでを見守り、守護して下さる神さまです。いわば、私たちの一生の守り神であり、祈願・相談事などの「総受付役」です。

また、産土の神は祖霊を統括し、助け導く神さまです。昔の日本人は祖霊や産土の神との深い結びつきを通して、生きていく時はもちろん、死んでからの安心も得ていました。

○鎮守さま・現住所の守り神。仕事や商売を助けてくださる神さまです。

○産土の神：産まれた土地の守り神。結婚、出産、家庭不和、精神的悩み相続、身内のトラブル等はまず産土の神にお願いとよいのです。

○氏神さま・氏族にとっての祖先神

また、忌部神社の天太玉(▼)アメノフトタマノ命、猿女神社の天宇受売(▼)アメノウズメノ命、鏡作神社の伊斯許理度売(▼)イシコリドメノ命、玉作神社の玉祖(▼)タマノヤノ命、戸隠神社の天手力男(▼)アメノタチカラオノ神、思兼神社の思兼(▼)オモイカネノ神は天の岩戸に隠れた天照大御神を再び外に出ていただいた功績のある神々です。天照大御神は素盞鳴(▼)スサノオノ大神が大暴れしたため、それを悲しみ、天の岩屋戸に籠もります。そのために、世の中は暗闇となり、さまざまな災いが起こります。ヤオヨロツノ神々は天の安河原に神集って協議します。そして、神々は岩屋戸をみつけ、さまざまな神事をして、再び天照大御神に岩屋戸から出ていただきます。すると、この世は再び明るい光の世界になります。つまり、災いを除く神々なのです。

### 稲荷大明神

大宮姫大神、倉稲魂大神、太田命を祭っています。倉稲魂(▼)ウガノミタマノ大神はスサノオノ大神の御子神であり、名前の通り、稲をはじめ穀物をつかさどる神(保食神)です。稲荷は稲生が転じたもので、「生成り、命の根、世の根」という意味があります。五穀豊穰、生活全般に幸を与えてくださいます。

### 木之山宮

稲荷宮の北にある小祠で、木の神を祭っています。

岡山県高梁市の木之山神社のご分霊で特に流行病におかげがあります。

### 地主社(地主神さま)

この土地の地主の神さまを祭っています。人間社会と同じように、地主の神さまにごあいさつするとよいのです。

### 宇賀神社

倉稲魂大神を祭っています。穀物の神(保食)の神です。

### 若宮神社

ご創建以来この神社にご奉仕された歴代の神職の祖神を祭っていると伝えられています。

### 塞神社

道開きの神である猿田彦大神を祭っています。

### 八十末社(▼)やそまつしや)

八十とは“たくさん”という意味であり、文字通り今村宮に関係のある多くの神々を祭っています。



## 神事・年中行事

今村宮では古式豊かに次のような神事・年中行事を行っております。積極的に参加して神さまのご神徳をいただきます。ましよう。

### 元旦祭 一月一日午前五時

元旦に一年間のご加護を祈願するお祭りです。地区総代の甘酒接待があります。元旦は鎮守さま、または産土神社に参拝して、一年間のご加護を祈りましよう。

### 粥つり神事 一月十四日夕方

慶長九年(一六〇五)正月より始めた無病息災を祈念する神事です。

とんど祭り 一月十五日午前八時

境内にてお祀りした神札、御守り、正月の注連飾りなどを御焼納します。

春祭り 五月十七日午前十時

神々に五穀豊穣をお祈りします。氏子崇敬者の安泰を祈願します。

写真供養祭 六月一日午前十時

岡山県、写真材料商組合の主催で行われます。

夏祭り 八月第三土曜日の夕方

境内末社稲荷神社の祭りで、輪潜りを近年あわせて行っています。

秋祭り 十月の第三土曜日、日曜日

一年の五穀豊穣を神さまに感謝するお祭りです。氏子崇敬者の安泰を祈願します。

七五三 十一月十五日を中心として、その前後

七五三は鎮守さまや産土神社で祈願を受けましょう。

新穀感謝祭 十一月三十日午前十一時

神前に新米を供えて、神さまに感謝するお祭りです。そして、ご飯を炊き、直会として新米を神さまとともにいただく祭りです。



## 恒例の祭事

宗忠神社御神幸祭 四月第一土曜日午前九時半

黒住教の教祖であり、宗忠神社のご祭神である黒住宗忠神が、かつて今村宮の神官として奉職されてきました。そのため、宗忠神社では、今村宮を「元宮」として崇め、教祖祭の前日に報恩感謝のため、前日に教主さま以下神官数名が衣冠束帯にて今村宮へ参拝する行事です。

近年になり、賑々しい行列を市内の人々の「もとにも」との声で、御神幸の行列は岡山市内を通り、後樂園の御旅所で行われています。

粥つり神事 一月十四日夕方

この神事は慶長九年（一六〇五）正月より始めたと伝えられます。一月十四日午後三時頃より村内より十六当の当番が集めた米を神前で炊きます。

釜の中に細い竹筒三本を入れ、早稲、中稲、晩稲の印を付け、しばらくして炊きあがった粥の中から、長い竹の箸でその竹筒を取り出して神前に供えます。翌日の十五日に当番を始め、十六当の人たちが神前に集って神祭の後、当番の宅に持ち帰り、竹筒を割って中の米粒の多いのをその年に蒔けば豊作といわれます。

また、この粥をいただければ無病息災と喜ばれ、今日まで続いているのは珍しいといわれています。

十六当

神社の中心的な世話役であり、三社宮の御遷宮の時にお出迎えした人たちといわれ、今も一年に一度回ってくる粥つりの行事を交代で奉仕しています。